

令和3年3月定例記者会見資料

## 英語特区を活用した英語教育の推進について (外国語・国際理解教育推進事業)

担当：教育委員会学校管理課

本市の将来を担う子供たちが、他国との歴史や文化の相違を理解・尊重し、共に生きる力、コミュニケーション能力を身に付けることをねらいとし、外国語・国際理解教育推進事業を実施してまいりました。

このたび、文部科学省より教育課程特例校（通称「英語特区」）の指定を受け、令和3年度より市内全小学校において、小学校1年生及び2年生から英語活動（「ホワイトイングリッシュ」）を実施します。さらに、市内全中学校の中学校1年生、2年生においては、英語を用いたコミュニケーション能力の育成を目的とした英語活動（「ホワイトイングリッシュ」）を新設します。

また、ALTを活用した市立幼稚園における英語活動の実施により、幼・小・中の途切れない英語教育を推進し、グローバル化に対応した人材育成を図ります。

### 1 特別の教育課程の概要

(1) 新たに取り組む教科等の名称 「ホワイトイングリッシュ」

(2) 対象

- ① 小学校1年生及び2年生
- ② 中学校1年生及び2年生

(3) 内容

① 小学校1年生、2年生

年間12時間のホワイトイングリッシュを新設。ALTとの交流を通して英語の発音やリズムに慣れ親しみ、外国の方々と積極的にコミュニケーションを図る態度を育成します。

② 中学校1年生、2年生

年間17時間のホワイトイングリッシュを新設。話す・聞く・書く活動を統合し、ふるさと白石について紹介したり、案内したり、英語を用いて自分の考えや思いを発信する力を身に付けさせ、世界の人々と英語を介して交流できる力を育成します。

(4) 目標

本市の英語教育を通じて、全ての児童生徒が世界の国々の文化を学び、自分たちの生まれ育ったふるさと白石について、英語で紹介したり、白石のまちを案内したりすることができる力を育成し、「シビックプライド ～まちへの誇りと愛着～」を育みます。

#### 【目標値】

中学校卒業時にCEFR A1レベル（英語検定3級）相当以上を有する生徒の割合50%以上を目指します。

## 2 英語特区を活用した本市の英語教育

### 【市立幼稚園】

A L Tを活用して、年間20時間程度英語教育を実施します。異文化への慣れ親しみに加えて、A L Tや教員、友達とのやりとりなど、英語を通じたコミュニケーションの楽しさを味わう活動を、年間を通じた計画に基づいて実施します。活動を通して、世界の人々と仲良く生活する態度を育成します。

### 【小学校】

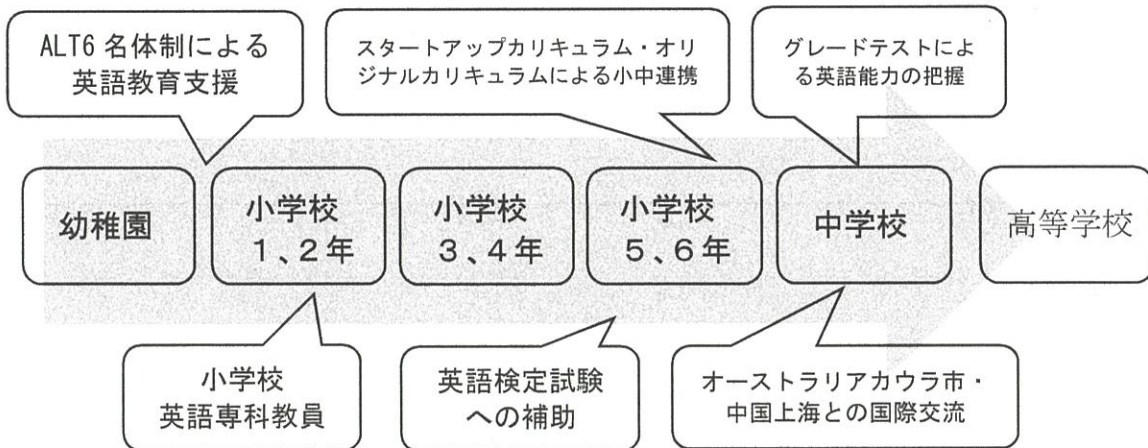
英語特区を活用し、小学校1年生から英語教育を実施します。幼稚園で育成された世界中の誰とでも仲良く生活できる態度を生かし、英語の音や簡単な表現に慣れ親しむ活動を通して、英語特有の発音を聞き取ることができる能力「英語の耳」を育み、英語特有の発音やイントネーションで話すことができる能力「英語の口」を育みます。指導は、英語専科教員とA L Tが行う予定です。授業では、本市で独自に作成した「英語アクティビティ集」を使用します。

※ 小学校3・4年生は外国語活動、5・6年生は外国語科を実施  
(学習指導要領に基づく)

### 【中学校】

英語特区を活用し、中学校1年生及び2年生において、聞く・話す・読む・書く活動を統合し、英語によるコミュニケーション能力育成に特化した学習を実施します。授業では、本市で独自に作成した「コミュニケーション英語アクティビティ集」及び「スモールトーク集」を使用します。「スモールトーク集」は中学校3年生でも使用し、コミュニケーション能力の育成に継続的に取り組みます。

### 【白石市の英語教育推進体制】



## 3 参考「英語特区」とは

文部科学省は、学校の特徴を生かして特別の教育課程を編成し、教育を実施することができる学校（「教育課程特例校」という）を指定することができます。指定を受けた学校や地域を「特区」と呼びます。

白石市では、市内全小中学校について、英語教育に関する特別な教育課程を編成する指定を受けました。